平成２６年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

県立会津高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成 27 年 3 月 22 日（日）～3 月 30 日（月）の 9 日間、1 年生の 30 名（男 8 名、女 22 名）が、アメリカ合衆国のボストンを中心に海外研修を行いました。ホームステイをしながら、午前中は、語学学校である Kaplan ハーバードキャンパスにて、他国の留学生を含む少人数のクラスで英語のレッスンを受け、午後は、マサチューセッツ工科大学の訪問や、ハーバード大学など現地の大学(院)で学ぶ学生からの講義を受けました。また、本校の創立功労者である山川健次郎氏が学んだイェール大学も訪問しました。

実施概要について

DAY 1：移動、ホストファミリー宅に到着
DAY 2：語学学校、アメリカ建国の歴史を巡る「フリーダム・トレイル」散策
DAY 3：語学学校、マサチューセッツ工科大学にて、キャンパスツアーと懇談会。
DAY 4：語学学校、講義（①ハーバード・メディカル・スクール大学院鎌田氏、②マサチューセッツ工科大学経済学部博士課程古川氏）
DAY 5：語学学校、現地にて福島の現状についての発表を実施。講義（③会社経営者である松川原氏、④ハーバード・メディカル・スクール渡部氏（会津高校 OB））
DAY 6：語学学校、ボストンの街中にて半日班別自主研修。
DAY 7：ボストンを出発し、ニューヘイブンにあるイェール大学へ移動。講義（⑤イェール大学大学院の蛭子氏他）後、イェール大学生による英語でのキャンパスツアーに参加。ニューヨークに移動、福島県人会の方々との座談会で福島の現状を発表。
DAY 8：ニューヨークを出発
DAY 9：移動

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

- **福島の現状発信**
  - ・発表者 13 名
  - ・聴衆 33 名（アメリカ人、世界各国からの留学生、等）
  - ・内容：以下の三部構成です。

①福島県の概要（地理、特産物、歴史、精神）
②東日本大震災とその被害
(1) 地震：マグニチュード・震度・震源地・発生日時、死者数・行方不明者数、避難者数
(2) 津波：発生地と被害の範囲、高さ、映像、原発に与えた影響
(3) エピソード１：最期まで避難を促し続けた人々
(4) エピソード２：生徒による被災体験（2 人のモノローグ）
③福島県の復興に向けた取り組み
(1) 除染活動
(2) 農業と漁業
(3) 観光業
(4) カウンセリング
(5) 地域文化の復興

・反応

「福島は元気」をテーマに発表しました。聞きながら涙する方もいて、発表後には現地の方から「君たちの世代が日本をさらにいい方向に向けていくことであろう。我々にとっても、良い時間であった。ありがとう。」とのコメントも頂きました。40 分弱の短い時間でしたが、英語で伝えたかったことは十分に伝わったようでした。質疑応答では、「日本では、学校で避難訓練を年に何回するのか」などの災害に関する質問や、「日本では朝食に何を食べるか」などの文化に関する質問が出ました。

- **現地におけるエネルギー学習**

マサチューセッツ工科大学の大学院で経済学を学ぶ古川氏より環境エネルギーについての講義を受けました。公共経済学の見地から環境問題をどう捉えるか、経済発展・経済成長と環境保護との関連等に焦点があてられました。生徒達は、「環境クズネッツ曲線」や「共有地の悲劇」など、未知の用語でも理解しようと努め、また「環境保護のために経済発展を犠牲にする必要があるのか」との問いには深く考えさせられたようでした。

実施後の成果について

生徒はこの研修を通して、①間違いを恐れずに勇気を持って英語でコミュニケーションする積極性や、②国際的な視野で物事を考えたり研究したりすることの重要性、③問題解決能力を身につけ磨いていくことの必要性などを学びました。

また、様々な研究分野に触れることで、英語を始め各教科を学習することの意義や目的について以前よりも明確に認識でき、それが今後の学習意欲につながっていくと思われます。

福島県の現状に関する発表では、自分の担当するトピックに関して下調べをし、日本語で原稿を書き、それを英訳し暗記した後、ジェスチャーをつけて発表しました。この経験を通じて、どの項目をどれくらい詳しく、またはどのようにわかりやすく他者へ伝えれば良いのか、よく考えて実践する機会になったようです。発表の後も、「福島についてより多くの人に知ってもらいたい」、「福島県の風評被害をなくしたい」という生徒の声が多く聞かれ、今後福島の復興にどのように自分が関わっていくべきかを考える貴重な機会になりました。